

みんなと一緒にしあわせを

館長 藤本秀彦

国際社会の中で日本の立場をふまえて、二十一世紀への展望に立つて人びとが生涯の各時期に必要な学習を、いつでもどこでも、たれでも行うことのできるようにしたいものです。そして従来からの学歴偏重の社会風習を改め、人びとの生涯を通じた自己向上の努力を導び、正当に評価する学習社会の方向を強く求めます。

また信頼感や連帯感に満ちあふれた地域づくり、青少年の健全育成、人間の尊厳と平等が保障される社会づくりも重要なことと考えます。

この時代に即応した課題解決には学校と地域社会と家庭が一緒に考えていかねばなりません。特に青少年の健全育成については、大人自身が子どもにどうあるべきかを考え、青少年の模範となるよう努めなければなりません。又家庭において子ども自身に礼儀、心の豊かさ、勤労の喜び、健康管理や体力づくり、責任と義務精神、公共心等々をしつけることが第一です。尚家庭教育の主役は母親と父親であるが、現在は母親にかたよっているところに問題があるのでないでしょうか。父親としての役割を果せるようにしなければなりません。家庭教育でも人間尊重の精神が大切です。みんなと一緒にしあわせを築きあげていくことが原点であります。

す。私たちは住みよい明るい地域社会をつくるため、お互いに相手の立場に立つて、自分のしあわせだけでなく、他の人びともしあわせになることを考えて暮らしたいものです。

報告(一) 十一事 平間克巳

一、由良の里センター竣工式、七月十三日  
待望のセンターの完成を見て、皆様と共に喜びたいと思います。

この建物は、瀟洒でモダンなセンターで、このセンター活用こそ、将来文化的で健康な由良が約束されるのでは無いでしょうか。又この事により、このセンター実現に力を注いで頂いた府市及び地元の有方々々に応える道だと思えます。

二、球技大会 八月十五日

由良をばなれ、都会生活をしている人達と地元の人々が、スポーツを通じて旧交を暖めお互いに健康を喜び合う楽しい一日である。今年も炎天の下に行われた。力は互角で僅少差で勝負が決まった。

(1) 一般男子ソフトボール	優勝	才四部
	準優勝	才三部
(2) 青年男子軟式野球ボール	優勝	才二部
	準優勝	才一部

成績発表

三、盆おこり

八月二十三日

今年幼稚園の行事と重なり、由良小学校の南庭で行われた。毎年ながら婦人会、老友会の方々の先導で始められ、それに各地区の踊りのベテランの方も加わり、約二〇〇人の集まりで賑やかであった。特に浴客も永平踊りに興味があったのか、教わりながら踊っていたのが印象的であった。

八月三十日

今年も、印好意により、二十四名がマイクロボスで興丹後方面、特にタマ市を軸とした史跡めぐりであった。

立派な本堂のある寺や、簡素な古びた佛閣の寺、さまざまの中、それ以外の特色があり由緒がある。それを天災、戦乱、生活苦の中、それに耐え、今日迄佛教文化財を守って継承して来た住民に教えられた。

五、区民運動会

九月十三日

今年が始めて二年目の運動会である。毎回変り映えしない種目などの批判にたえ、三種目新しいのを選定した。久し振りの運動会に、皆が懸命に走った。得点教も伯仲し、最後の四部対抗リレーにより勝敗が決まる等、予断を許さない戦況だった。特に優勝した一部は、昭和二十四年優勝してより三十二年振りの優勝だった。

総合優勝 才一部  
準優勝 才四部  
四部対抗リレー 才四部

六、生活会議

九月二十六日

生活会議の目標は「私達住民自身が協力しあって、地域課題を解決していく、新しい共同社会を形成する、争いある」とされている参加構成は、各自治会を始め、婦人会、子供会、実業会、観光会、農協等十七名

議題

- 1、発電所問題  
由良には無視出来ない重要な問題なので、今後は機会を捉えて、発電所の知識を深め慎重に対処して行く。
- 2、浜の問題  
石垣の基礎、砂の浸食防止、ゴミの処理、浜辺の野性の花が絶滅、若しくは数を減っている。
- 3、信号機(三色信号機)  
公民館は、一年前国道一七八号線で交通事故で亡くなられた小学生の痛ましい死に対し再びこのよう悲しい事故の繰り返しをしてはならないと三色信号機の取り付けを切望していました。(現状は、栗田の新宮から舞鶴の八雲橋迄なし、そのを自動車の切取目がなく横断に危険)この生活会議の席上、自治会筋より、当局では取り付ける計画をしているとの朗報を得た。
- 4、婦人会より生活合理化(見舞返し全廃)に協力の要請があった。

七、全国公民館研究集会

十月二十三日

今年、京都で行われ、京都府公民館連絡協議会長である藤本公民館長が、この大役に就かれました。

北海道から沖縄まで館長主導千八百名が集まり、然も十  
 四の分科会が会場別に開かれる等大変な仕事です。  
 次の開催地長野市は藤本会長より公民館旗が渡され、会  
 場から万頼の拍手が起る中で意義深い集会が終った。  
 この集会が成功裏に終った事は大会全役員の方々の熱意  
 に負う処もあるが、尚且つ藤本館長の高潔な人格と卓越な  
 指導力が大きな成果になつた事と思ひます。  
 又この集会で全国各地の公民館活動の生々しい報告があ  
 ったが、京都府、宮津市の指導による地区公民館活動の良  
 さを再確認した。それは地区公民館活動は「ふれあい活動」  
 だからである。以上

報生口(一一)

一、寄附

運動会寄附  
 三〇〇〇円 舞鶴信用金庫由良支店  
 二〇〇〇円 宮津農協由良支所

2、図書寄附

物語の寺 一冊 如意寺  
 中古本 三十五冊 瀬戸野友次郎氏

二、剣道昇段者

初段 岡本康一君(中一)  
 竹村寛嘉君(中一)

宮津市婦連

バレエボール大会に参加して

サークル一会員

十月二十五日、秋晴の中、宮津中学校に於いて、第三回市婦  
 連バレエボール大会が盛大に行われた。  
 今年も十七チームが参加した。どのチームを見ても自信に満  
 ちあふれを顔ぶれ、由良チームも二チーム参加、今年こそわと  
 張り切つて会場入りをした。

開会式、準備体操のあと、矢野市長さんを始め大会役員で親  
 善試合がユーモアの中で一セット行われたあと、各ABCDF  
 ンのトーナメント第一試合は、由良Aチーム。今年はいくじ運  
 悪く二試合共に強敵、第一試合は栗田Bチーム、第二試合府中  
 C、練習の時にはよくレシーブも出来たのに、やはり試合慣れ  
 していいいせいひ固くなり、惜しくも二試合共に惜敗致しまし  
 た。

Bチーム、応援席に期待されながら、第二試合文珠を二対〇  
 で勝ち進み、準決勝へもち込んだ。吉津チームとの対戦、リラ  
 ックスしていこうと互いに励まし合い乍ら一セット、二セット  
 共にとり、ついに決勝戦へ。やはり決勝戦ともなるとなかな  
 手ごわい相手、15点差スマーズに入れ、これはいけると思った  
 が、いつもの事乍ら、もう少しという時のぬぼりかたらず、一  
 セット2対18、二セット2対16と惜しくも準優勝で終りました  
 「くやしいな」「あの時の私のミスで」「今年はいんよくサーブ  
 も入ったのに」「ほめたり、くさしたり」「来年こそは優勝しよう  
 な」とみんで誓い合い乍ら退場致しました。  
 熱心だった七き小室三恵子さんと共にこの試合が出来なかつた。

左のが残念でなくありません。  
 ストレス解消一日の疲れも忘れ、家路につく時のすかさずか  
 しい気持はやっていなければ味わえないと思ひます。  
 若い会員さんも増えつつあります。婦人会の皆様気軽に休  
 青館に遊びに来て下さい。浜崎コーナと共にお待ち致して居  
 ります。最後に応援に来て下さつた役員の方、御声援ありか  
 とうございました。

出場選手を紹介

- |        |        |
|--------|--------|
| Aチーム   | Bチーム   |
| 糸井 久枝  | 藤本 貴美子 |
| 林 妙子   | 玉垣 泰子  |
| 田中 勝子  | 川崎 美雪  |
| 千坂 則子  | 中西 清美  |
| 足立 幸枝  | 大森 敬子  |
| 中西 信子  | 山下 初子  |
| 山田 敏枝  | 吉田 愛子  |
| 小田原 明子 | 樹田 千鶴  |
| 中西 きくよ | 中西 巴   |

由良の謎

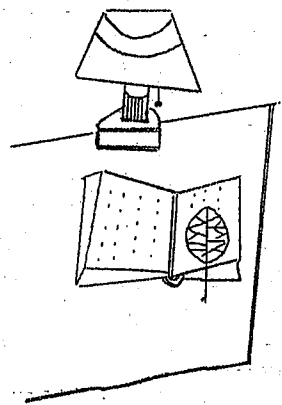
奥野貞雄

昔の国道七曲八峠の麓に謎の墓石群が沢山あります。この墓  
 石は、今は荒れ果て各所に散乱して居り、特に持主なく供養さ  
 れたものもありません。大小さまざまで一四センチ角前後、高さ  
 五五センチ位、表面には日輪、地蔵を彫刻又一個二体一体の地  
 蔵尊、台石あれば地中に立て等さまざま、年号等は見当りませ  
 ん。只一基由良石様にて正面に須頭要雲信女、右に元々三年、  
 左に十一月十二日?と判読される。一基をたよりにしたか、松  
 原寺以前、如意寺には過去帳もなく不明。  
 麓には観音堂を建て地蔵碑を配し供養したあとあり。後年、  
 左近氏の先祖、風雪に荒れ果て、物乞い、行者などの宿になる  
 とて再建をみくらめ、住宅の一隅に建立した堂に観音さんを奉  
 祀し、堂守をして居られたが、今は旧お堂前、金比良参道右側  
 に奉祀し野道にあつた地蔵尊を教体配置しました。信仰ある  
 方があるか、供養のあとがあります。

先年、中嶋利雄先生、ここによいお地蔵尊があつたが今は粉  
 失して居り、付近を探されたが、見当らず惜しんで居られたま  
 した。付近城のこし、堂の上、堂の下等、左近氏の土地です。  
 註、服面墓所は、文化十一年の洪水に流失し東墓所に合併し  
 現在は服駐車場となっております。お堂のみが名前のこり、  
 地蔵尊も墓石も何も語らず。数百年、古戦場を前、うしろ断崖  
 に祀られ放置されておるのはいかに残念です。簡明の寺か  
 かりないでしょうか。有識者の御協力お待ちします。

註一、由良に古城址二ヶ所あり、岡野允著、丹後の山城は駅  
 裏にある城山にて城主駒澤主水若狭武田氏、一色氏の戦い。

二、城のこし、中嶋利雄先生によると「陰徳太平記」元龜二年山中鹿之助、毛利氏に因らたが逃出し丹後を打越え、瀬泊諸所の一揆を駆り集め、海賊温妨の中秋日を送る。元龜三年あぶれるものを集め、丹後由良にて軍船をたて、由良、神崎、田辺の船夫を集める。山中鹿之助は、もつら織田信長にすがり乍ら、丹後、因幡へかけて、いくつかの拠点をつくり、鳥取城を急襲、大勝を得、後海賊まがいの行衛あり。折から田辺には、水難、火難あいつぎ、之れ日御崎神社の神罰のたたりなりと恐愕、破れて山中鹿之助と共に海上に逃れ、丹後由良に拠れり「史料総覧、卷十一」天正三年九月二十八日の条に吉川氏の先兵一式氏尼子勝の属城丹後由良城を海陸より攻め是日之を陥す。吉川文書「村近の地名に馬場、奈具平別所、宮ノ上、上良、矢着、前田、不明の個所に城の谷、熊の山、赤道、的場等あり」尚別所には古戦場と伝へられ所もあります。考えるに城主不在、鹿之助は備中高松城に秀吉の援助をうけ、上月城を攻め居れり。中のごとて、はげしい戦いだったか、城兵少く全滅、余りにも悲惨な敗戦に後の人供養に建立したのでなかつか。私見と併記、諸兄の御批判と御協力を待ちます。



和歌一題

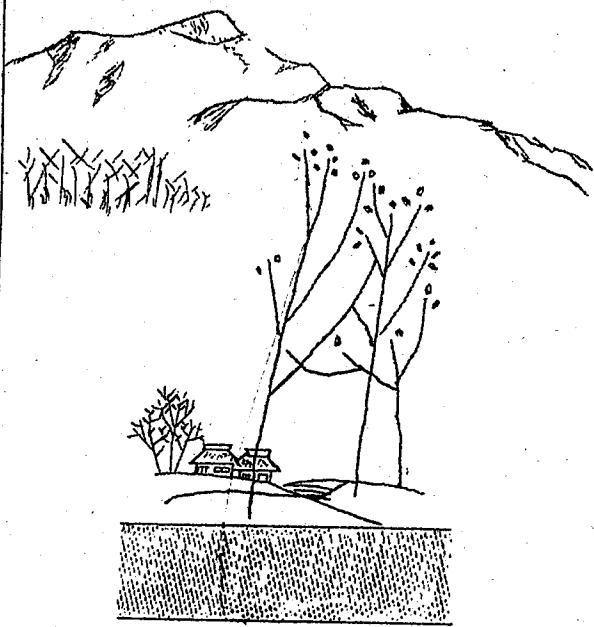
勅題 橋

佐原よし子

橋立に行幸ありて

御手植の

松のみどりの美しく栄ゆ



第五回 史跡めぐり

丹後の歴史と伝説を訪ねる。を終えて、文化財についての認識を深めていただくことを目的に、公民館では毎年公民館の部員や社会教育団体関係者の研修に史跡めぐりを行っております。本年も去る八月三十日、久美浜を中心に史跡めぐりを実施しました。探訪のコースは、次の通りでした。

- 大治山丹頓寺 — 霊鳴山本願寺 — 神谷大乃宮
- 宝珠山如意寺 — 洪諾遺跡 — 竹野遺跡等

先日来新聞紙上をにぎわしております。久美浜湯舟坂古墳出土の金銅製環頭大刀が物語るように、この丹後は遠く歴史以前数千年縄文の昔から大陸と交流し、その文化をとり入れて強大な丹波の国を造りあげていた人々がいたようでありま

す。この丹後に大陸の文化をもたらした人々は、たなはた伝説に伝えられているように、物を生む神(生産神)をまつる人々によって移されたようでありま

力の自由にはたかたかたさうです。そこで雄略三二(四七八)大和勢力は内宮の神託といて、丹波の「保食神」を天皇家の祭神「天照大神」の相手神として伊勢にとりあげてしまつたのが、いまの外宮であります。このように丹波の民のよりし方であった「豊受神」を大和に移されたことによつてようやく丹波も静まったわけですが、和銅六(七一三)大和勢力にとつて強敵であった丹波の力を弱めるため、丹波から「加佐、余社、丹波(中)竹野、熊野」の五郡を分けて丹後国をつくり、丹波の勢力を二分してしまひました。このように私たちの住む丹後は古くから開かれた地でありますので、まず知ることによつて後世に正しく伝えていくことが大切なことと思ひ、計画し実施しました。それそれの訪問先では懇切な説明をうけ、参加の皆さんにも大変参考になつたとの声を聞くなど、好評に終ることができました。なおこの計画の実施にあつて、市教育委員会にご援助賜つたことも併せて報告しお礼いたします。

